

教育目標		自ら未来を切り拓き、心豊かに生きる生徒の育成						
重点目標		(1)授業改善を常時行い、「授業がわかりやすい」と答える生徒を増加させる。 (2)魅力ある学校づくりに努め、不登校生徒の減少に努める。 (3)教育相談を充実させ、何でも言える関係づくりに努める。 (4)生徒が主体的かつ積極的に取り組める活動を計画・実施する。 (5)「報・連・相」の重要性を全職員が認識し、風通しの良い職場づくりを行う。						
主要施策	実施目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①授業改善	①11他教員による授業参観を実施し、教科部会などで動員や協議を行い、授業力の向上を図る。 ②各教科部会において月に一度は授業改善に係る協議を行う。	①生徒用アンケート「先生は教え方について工夫している」の「よくあてはまる」や「ややあてはまる」の割合が95%以上 ②生徒用アンケート「授業内容がわかりやすい」の「よくあてはまる」や「ややあてはまる」の割合が70%以上	B	①「よくあてはまる」や「ややあてはまる」の割合が前回に比べ2%上昇し、94%と、ほぼ目標に近い値を記録した。 ②「よくあてはまる」や「ややあてはまる」の割合は69%と前回よりも2%上昇し、ほぼ目標に近い値を記録した。	引き続き、今回設定した具体的施策の充実を図る。また、より教員が教材研究に費やすことによる授業づくりや、生徒が質問しやすい関係性を作るために生徒と向き合うことのできる時間を確保していく	「生徒用アンケート」授業内容がわかりやすいことについて、先生に質問しやすい関係性を作った。先生に質問しやすい関係性を作った。先生に質問しやすい関係性を作った。先生に質問しやすい関係性を作った。
		②誰一人取り残さない取組	②11授業後にしばらく教室に残り、質問しやすい環境を作ったり、テスト前の質問教室の充実を図る。振り返りシートを活用し、困っている生徒には教師から声をかける。(2)ドリルワークなどICTを活用し、個別の学力を把握する。 ③教師側から積極的にアプローチを行う。	①生徒用アンケート「授業内容がわかりやすい」の「よくあてはまる」や「ややあてはまる」の割合が70%以上	B	①「よくあてはまる」や「ややあてはまる」の割合が前回に比べ2%上昇し、94%と、ほぼ目標に近い値を記録した。 ②「よくあてはまる」や「ややあてはまる」の割合は69%と前回よりも2%上昇し、ほぼ目標に近い値を記録した。	引き続き、今回設定した具体的施策の充実を図る。また、より教員が教材研究に費やすことによる授業づくりや、生徒が質問しやすい関係性を作るために生徒と向き合うことのできる時間を確保していく	「生徒用アンケート」授業内容がわかりやすいことについて、先生に質問しやすい関係性を作った。先生に質問しやすい関係性を作った。先生に質問しやすい関係性を作った。先生に質問しやすい関係性を作った。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①情報活用能力の育成	①授業や課題においてICT機器を用いて、情報の活用(取組・発表・伝達・共有)の方法を指導する。	①生徒用アンケート「授業や課題でICT機器(タブレット等)を活用している」の肯定的評価が90%以上	A	①生徒用アンケート「授業や課題でICT機器(タブレット等)を活用している」の肯定的評価が90%以上	①ICT機器の活用については引き続き授業での活用を継続したい。また英語教育の充実については、2年生を含めて引き続き学力の向上に努めたい。	ICT機器の活用による成果が顕著に現れていると感じた。また、少数であるがICT機器に不慣れた生徒、英語能力が目標に達していない生徒へのフォローもお願いしたい。
		②英語教育の充実	②基礎基本の定着を図り、「目的」場面「状況」に応じた実践的コミュニケーション能力の向上を図る英語活用を実施する。	②3年生において、CEFR(セファール)A1レベルの力が認められる生徒の割合が65%以上	A	②今年度IBAIに約70%の3年生がA1レベル(英検3級)となった。 ③教師用アンケート「ICT機器を授業や校務に活用している」の肯定的回答が95%となった。	ICT機器の活用については引き続き授業での活用を継続したい。また英語教育の充実については、2年生を含めて引き続き学力の向上に努めたい。	ICT機器の活用による成果が顕著に現れていると感じた。また、少数であるがICT機器に不慣れた生徒、英語能力が目標に達していない生徒へのフォローもお願いしたい。
「豊かな心」の育成	①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①「いのち」の大切さを実感し、思いやりの気持ちをもち、豊かな人間性あふれる生徒の育成を目指す。	①道徳研修会で学んだ内容をローテーション道徳や日々の授業に生かす。また、生徒用アンケートと教職員用アンケートの該当する項目で肯定的評価が85%以上になるようにする。	①道徳研修会で学んだ内容をローテーション道徳や日々の授業に生かす。また、生徒用アンケートと教職員用アンケートの該当する項目で肯定的評価が85%以上になるようにする。	B	①道徳研修会で学んだ内容をローテーション道徳や日々の授業に生かす。また、生徒用アンケートと教職員用アンケートの該当する項目で肯定的評価が85%以上になるようにする。	①道徳研修会にローテーション道徳の授業を通して授業力向上に努めている。また、生徒用アンケートと教職員用アンケートの該当する項目で肯定的評価が85%以上になるようにする。	①道徳研修会にローテーション道徳の授業を通して授業力向上に努めている。また、生徒用アンケートと教職員用アンケートの該当する項目で肯定的評価が85%以上になるようにする。
		②全教職員で情報を共有し、組織的な生徒指導を行う。	②生徒指導委員会を週1回開催し、情報共有を行う。また、生徒用アンケート「先生は、生徒に状況に合わせた指導している」と保護者用アンケート「学校は状況に合わせた生徒指導をしている」の肯定的回答を全学年85%以上にする。	②生徒指導委員会を週1回開催し、情報共有を行う。また、生徒用アンケート「先生は、生徒に状況に合わせた指導している」と保護者用アンケート「学校は状況に合わせた生徒指導をしている」の肯定的回答を全学年85%以上にする。	B	②生徒指導委員会を週1回開催し、情報共有を行う。また、生徒用アンケート「先生は、生徒に状況に合わせた指導している」と保護者用アンケート「学校は状況に合わせた生徒指導をしている」の肯定的回答を全学年85%以上にする。	②生徒指導委員会を週1回開催し、情報共有を行う。また、生徒用アンケート「先生は、生徒に状況に合わせた指導している」と保護者用アンケート「学校は状況に合わせた生徒指導をしている」の肯定的回答を全学年85%以上にする。	②生徒指導委員会を週1回開催し、情報共有を行う。また、生徒用アンケート「先生は、生徒に状況に合わせた指導している」と保護者用アンケート「学校は状況に合わせた生徒指導をしている」の肯定的回答を全学年85%以上にする。
「健やかな体」の育成	①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①「食」の大切さを理解する。	①給食総務によるお昼の給食メニューの放送など、給食を食べたくなる取り組みを子どもも発信させる。	①給食総務によるお昼の給食メニューの放送など、給食を食べたくなる取り組みを子どもも発信させる。	B	①「食」の大切さを理解する。	①給食総務によるお昼の給食メニューの放送など、給食を食べたくなる取り組みを子どもも発信させる。	①給食総務によるお昼の給食メニューの放送など、給食を食べたくなる取り組みを子どもも発信させる。
		②各部活動においてやりがいを感じさせる。	②校内外で活躍する生徒を表彰することで活躍している生徒が全校生徒の目に見えることが増えた。その成果が、表彰の場でも増加している。また、地域移行が進むことで、この重点目標を現状に合ったものに置き換えること。	②校内外で活躍する生徒を表彰することで活躍している生徒が全校生徒の目に見えることが増えた。その成果が、表彰の場でも増加している。また、地域移行が進むことで、この重点目標を現状に合ったものに置き換えること。	B	②校内外で活躍する生徒を表彰することで活躍している生徒が全校生徒の目に見えることが増えた。その成果が、表彰の場でも増加している。また、地域移行が進むことで、この重点目標を現状に合ったものに置き換えること。	②校内外で活躍する生徒を表彰することで活躍している生徒が全校生徒の目に見えることが増えた。その成果が、表彰の場でも増加している。また、地域移行が進むことで、この重点目標を現状に合ったものに置き換えること。	②校内外で活躍する生徒を表彰することで活躍している生徒が全校生徒の目に見えることが増えた。その成果が、表彰の場でも増加している。また、地域移行が進むことで、この重点目標を現状に合ったものに置き換えること。
教育相談・支援体制の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①キャリア教育の推進	①キャリア教育の推進	①キャリア教育の推進	B	①キャリア教育の推進	①キャリア教育の推進	①キャリア教育の推進
		②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用	②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用	②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用	B	②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用	②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用	②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用
特別支援教育の推進	①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	①支援体制を整える。	①支援を要する生徒について、外部機関や小学校、生徒指導担当、支援員と連携し、一人ひとりの理解を深める。	①支援を要する生徒について、外部機関や小学校、生徒指導担当、支援員と連携し、一人ひとりの理解を深める。	B	①支援を要する生徒について、外部機関や小学校、生徒指導担当、支援員と連携し、一人ひとりの理解を深める。	①支援を要する生徒について、外部機関や小学校、生徒指導担当、支援員と連携し、一人ひとりの理解を深める。	①支援を要する生徒について、外部機関や小学校、生徒指導担当、支援員と連携し、一人ひとりの理解を深める。
		②特別支援教育についての研修の場をつくる。	②特別支援教育についての研修の場をつくる。	②特別支援教育についての研修の場をつくる。	B	②特別支援教育についての研修の場をつくる。	②特別支援教育についての研修の場をつくる。	②特別支援教育についての研修の場をつくる。
教職員の資質向上	①研修等の充実	①校内外で研修に自主的に参加し、キャリアアップに資する能力の育成	①研究担当を中心に、情報共有し、資質向上に努める。	①校内外で研修に平均5回以上参加し、資質向上に努める。	B	①校内外で研修に平均5回以上参加し、資質向上に努める。	①校内外で研修に平均5回以上参加し、資質向上に努める。	①校内外で研修に平均5回以上参加し、資質向上に努める。
		②主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けて、アクティブラーニングの視点や、ICTの活用などの新たな課題に対応できる教員の育成	②主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けて、アクティブラーニングの視点や、ICTの活用などの新たな課題に対応できる教員の育成	②主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けて、アクティブラーニングの視点や、ICTの活用などの新たな課題に対応できる教員の育成	B	②主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けて、アクティブラーニングの視点や、ICTの活用などの新たな課題に対応できる教員の育成	②主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けて、アクティブラーニングの視点や、ICTの活用などの新たな課題に対応できる教員の育成	②主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けて、アクティブラーニングの視点や、ICTの活用などの新たな課題に対応できる教員の育成
学校を支える組織体制の整備	①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	①コミュニティ・スクールの充実	①地域の教育力を導入し、地域に根ざし地域に開かれた学校とするために、まちなか先生を年に1度活用する	①各学年、年に1度はまちなか先生を招き、特定の分野に専門性の高い知識を得る。	B	①地域の教育力を導入し、地域に根ざし地域に開かれた学校とするために、まちなか先生を年に1度活用する	①地域の教育力を導入し、地域に根ざし地域に開かれた学校とするために、まちなか先生を年に1度活用する	①地域の教育力を導入し、地域に根ざし地域に開かれた学校とするために、まちなか先生を年に1度活用する
		②地域と学校の連携・協働体制の構築	②地域の教育活動を地域に開き、理解してもらい、HPなどを活用する	②地域の教育活動を地域に開き、理解してもらい、HPなどを活用する	B	②地域の教育活動を地域に開き、理解してもらい、HPなどを活用する	②地域の教育活動を地域に開き、理解してもらい、HPなどを活用する	②地域の教育活動を地域に開き、理解してもらい、HPなどを活用する
安全・安心な教育環境の整備・充実	①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①学校園防犯訓練・防災教育の充実	①道徳の授業において防災教育を行った。定期的な避難訓練を通して、防災教育の充実を図る。	①防災マニュアルを職員会議や研修会で周知する。また、年2回火災・地震を想定した避難訓練を行う。	B	①道徳の授業において防災教育を行った。定期的な避難訓練を通して、防災教育の充実を図る。	①防災マニュアルを職員会議や研修会で周知する。また、年2回火災・地震を想定した避難訓練を行う。	①道徳の授業において防災教育を行った。定期的な避難訓練を通して、防災教育の充実を図る。
		②子どもの安全対策の推進	②通学路や校舎、集会などをはじめ、必要に応じて注意喚起を行う。登下校指導など定期的に行う。	②通学路や校舎、集会などをはじめ、必要に応じて注意喚起を行う。登下校指導など定期的に行う。	B	②通学路や校舎、集会などをはじめ、必要に応じて注意喚起を行う。登下校指導など定期的に行う。	②通学路や校舎、集会などをはじめ、必要に応じて注意喚起を行う。登下校指導など定期的に行う。	②通学路や校舎、集会などをはじめ、必要に応じて注意喚起を行う。登下校指導など定期的に行う。

学校関係者評価総括
 学校として重点的に取り組んだことについては、着実に成果に表れている。また、教育活動のふり返りをつつと丁寧にしており、対策もよく考えられている。教職員の資質の向上については、教職員自身が主体性を持って、全校挙げて教育課題に取り組んでほしい。不登校の未然防止については、生徒と保護者、教職員がお互いに尊重し合う良好な関係性を構築し、わかる授業づくり、感動のある学校行事等を通して、生徒たちの自尊感情の醸成を図っていくことを期待する。今年度の北中学校の自己評価に対して、概ね評価する。本年度の成果と課題、北中学校の強みや弱みを分析し、実効性のある改善策を推進していただきたい。

次年度に向けた重点的な改善点
 (学力向上)次年度は、生徒一人ひとりが課題に対して、自ら問を立て、課題追求型の学習スタイルの構築をめざして研究を推進する。確かな学力の定着を図るために校内研究を充実させ、教職員の授業力を高めていく。(生徒指導)生徒や保護者と常日頃から適切にコミュニケーションを取り、良好な関係性の構築に努める。日常のあらゆる場面に教育相談と捉え、生徒が心理的安全性をもって学校生活を送り、ウェルビーイングが実現できるような支援をする。不登校、問題行動については未然防止に努めるとともに、もしも事故が発生した際は、教員間の連携をスムーズに行い、組織的かつ丁寧に対応を行う。(教員の資質の向上)教員自身が主体性を持って教育活動に取り組む。学校教育目標の実現に向けて、指示を求めるのではなく、自身の置かれた立場で考え、お互いに提案する教員間の関係性を築く。学校行事や授業などでは、独創性、創造性を発揮して生徒の力を高める教師集団をめざす。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った